

地域の枠を超えて行う
岐阜県統一の通信指令教育について

岐阜県メディカルコントロール協議会
岐阜県危機管理部消防課 眞鍋 哲也

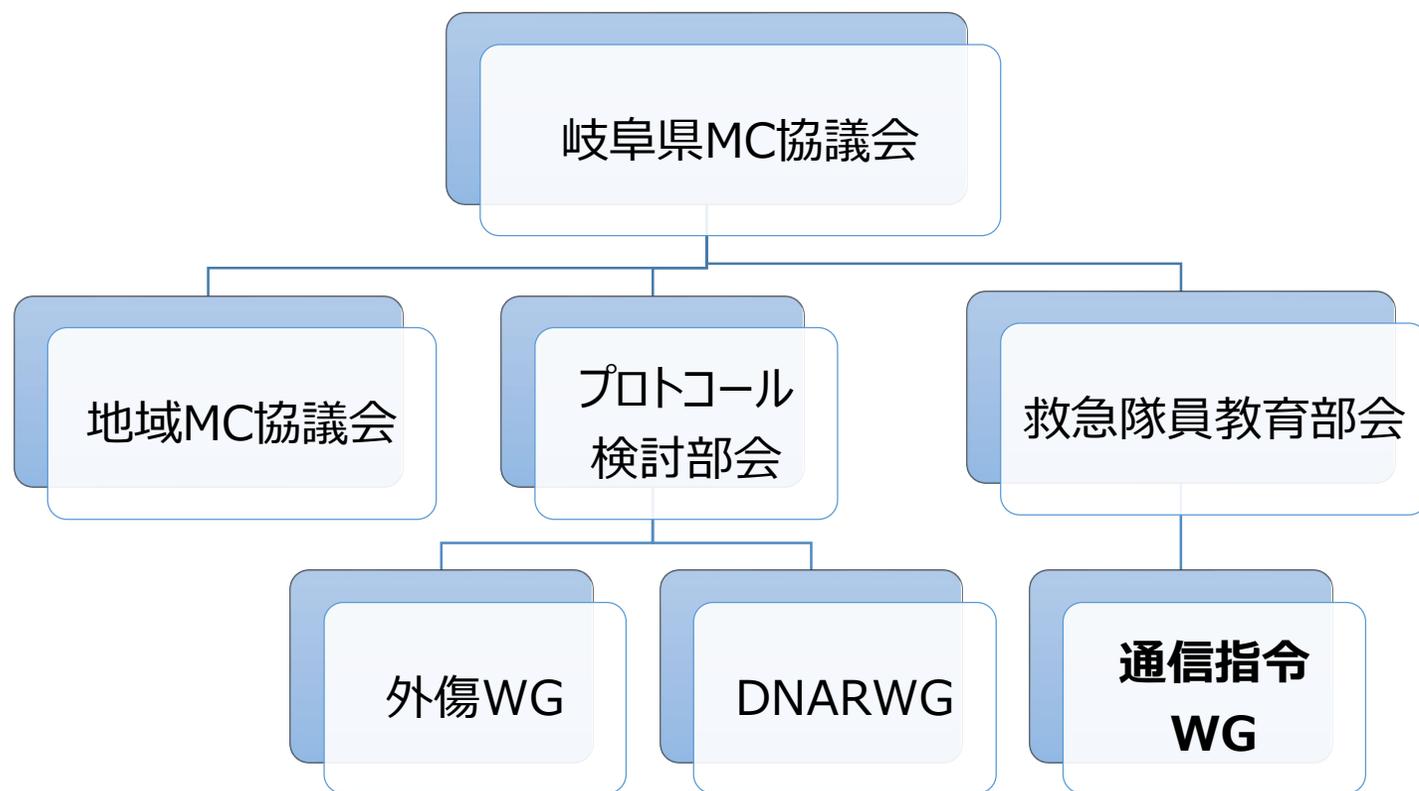
岐阜県医療コントロール協議会

岐阜県人口：約196万人 面積：約10,600 km²

消防本部数：20消防本部

消防職員数：約2,700人 救急隊数：126隊

通信指令員数：約270人



岐阜県の通信指令員の救急教育に係るWG

岐阜県MC救命士

WG構成員

(1) 救急医療及び隊員教育等に携わる医師

1	岐阜大学医学部附属病院	医師	
2	大垣市民病院	医師	
		合計	4名

(2) 指令業務及び救急業務に精通した 消防機関の職員

1	岐阜地域	2名	
2	西濃地域	1名	
3	中濃地域	1名	
4	東濃地域	1名	
5	飛騨地域	1名	
		合計	6名

岐阜県MC救命士の仕事

岐阜県MCが主催する教育への参加・企画・運営

救急救命士集合研修
救急救命士処置範囲拡大追加講習
MC救命士養成研修
薬剤・挿管修了実施

通信指令員教育

岐阜県MCが主催する各種会議への参加

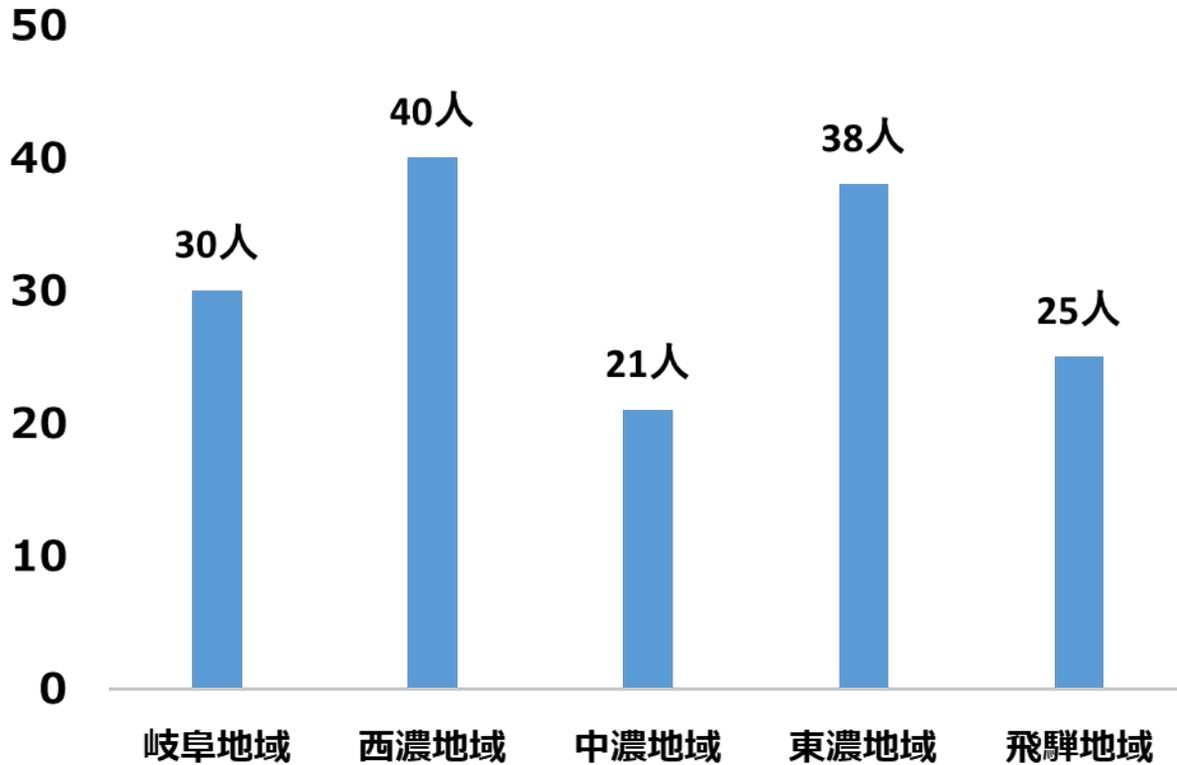
救急隊員プロトコール改定プロセスへの参画

委員として会議に参加

各学会への参加、発表

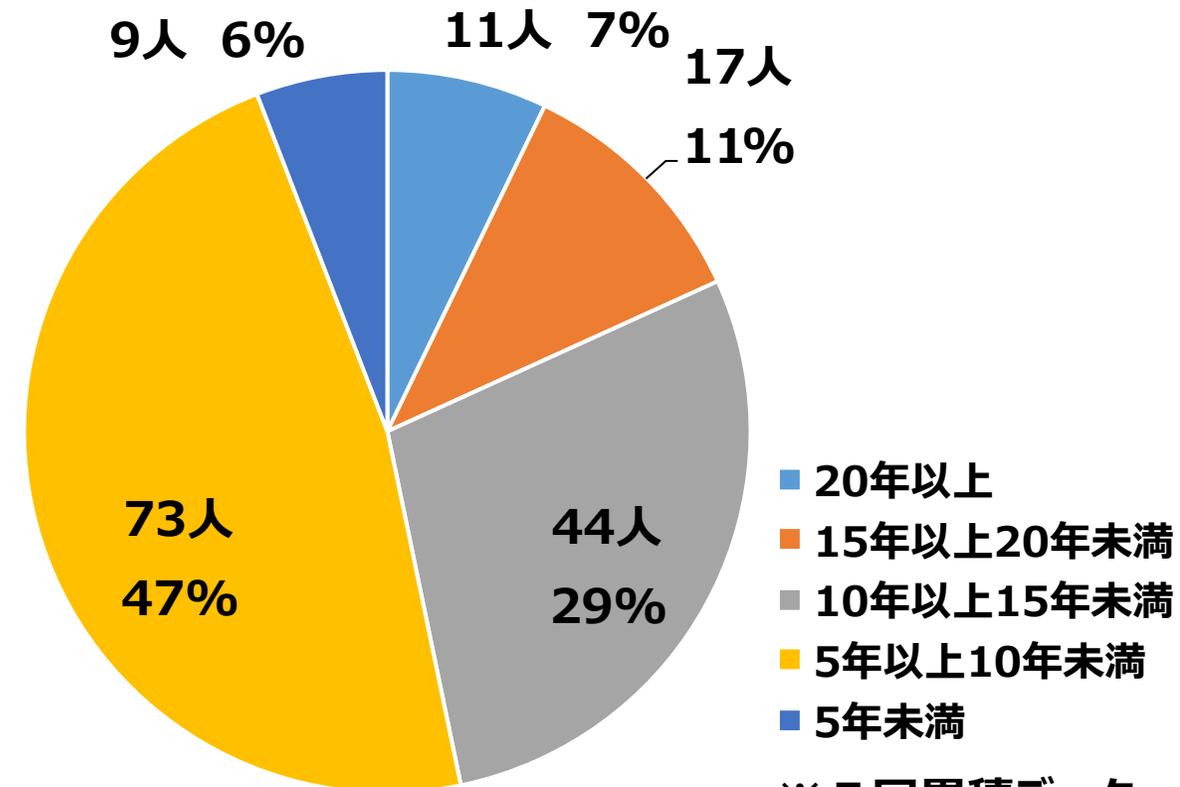
通信指令教育の受講者の実績

地域別受講者数



※ 5回累積データ

受講者の通信指令経験年数割合

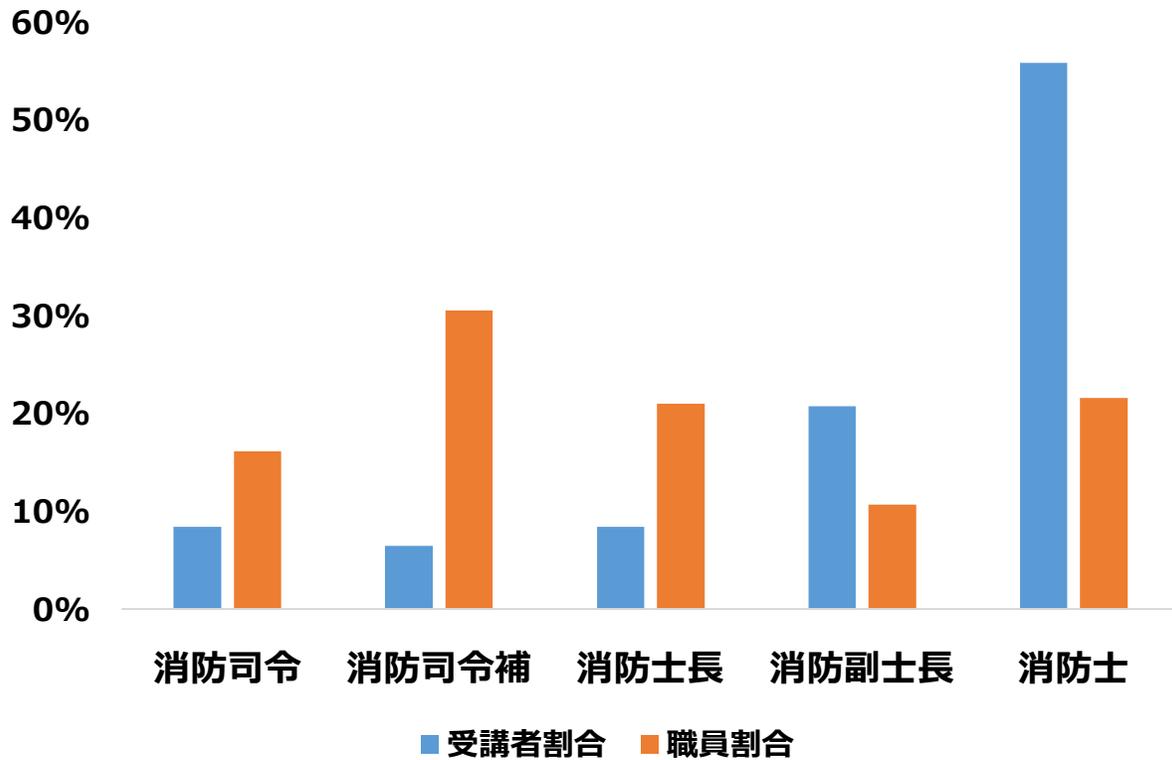


※ 5回累積データ

最高年齢：58歳 最低年齢：22歳 平均年齢：40歳

通信指令教育の受講者割合

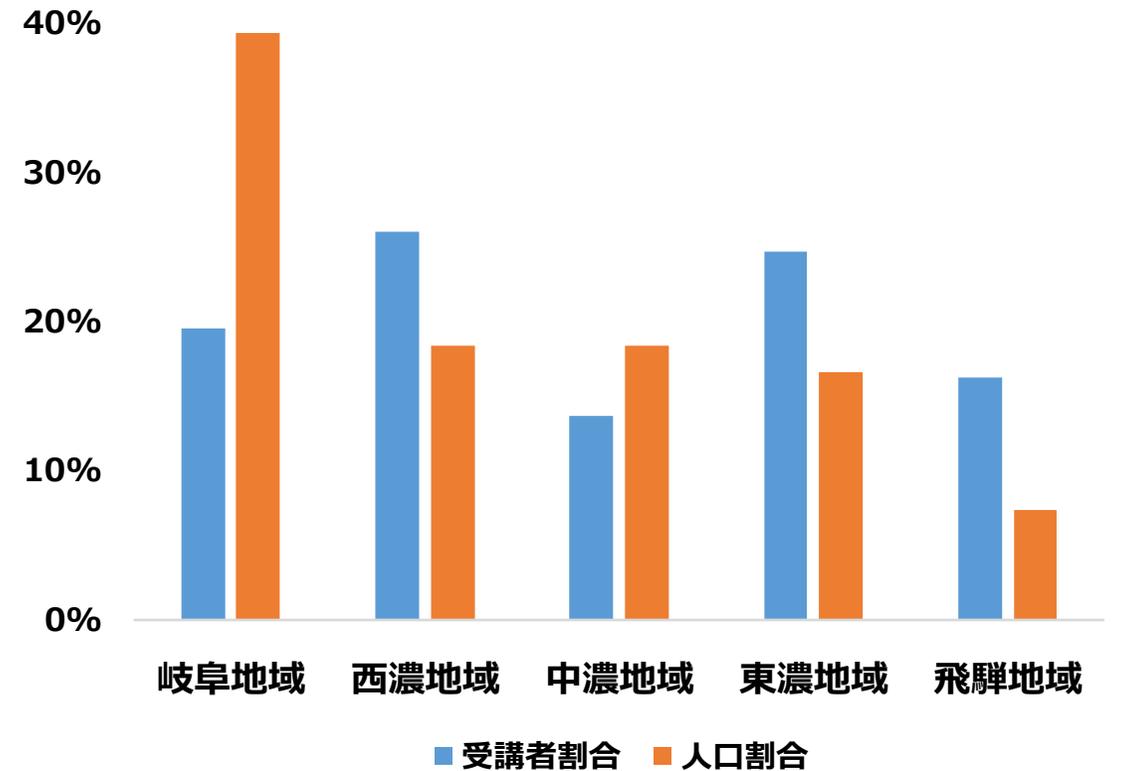
受講者・消防本部職員階級別割合



※受講者割合（過去5回の累積データ）

※消防本部職員割合（令和3年度データ）

地域別受講者割合・人口割合



※受講者割合（過去5回の累積データ）

※人口割合（平成27年国勢調査データ）

通信指令教育～座学・実技～

到達目標～座学～

令和3年度 通信指令員の救急に係る教育 第6期 カリキュラム 実施日：令和3年12月22日・23日・24日

受講者 30名程度（最大36名）

月日	第1時限		第2時限	第3時限	第4時限	第5時限	第6時限	第7時限
	9:00～9:35		9:45～10:35	10:45～11:35	13:00～13:50	14:00～14:50	15:00～15:50	16:00～16:50
12月22日	9:00～9:20		9:20～9:35		座学	座学	座学	座学
1日目	入校式 ガイダンス		プレテスト		総論 3分検証スイッチ	プロトコル各論	心肺蘇生・AED	口頭指導
指導医師	学校教官		WEB配信公開講座		医師 1名	医師 1名	医師 1名	医師 1名

通信指令員は、

救急活動に**スイッチ**を入れる
カギとなる**支援者**を自覚できること！！

年齢、経験、地域の枠にとらわれず

実施できる知識、能力を身に着けること！！

月日	第1時限	第2時限	第3時限	第4時限	第5時限	第6時限	第7時限
	9:00～9:50	10:00～10:50	11:00～11:50	13:00～13:50	14:00～14:50	15:00～15:50	16:00～16:50
12月23日	座学	座学		実技		座学	座学
2日目	事後検証について	指令員の役割と初動		現場特定訓練		支援情報	
指導医師	学校教官	消防職員 1名（岐阜市消防本部）		消防職員 1名（可茂消防事務組合消防本部）		学校教官	
ファンクター	ファシリテーター 6名（通信教育修了者 2名、MC救命士 4名）						医師 1名

到達目標～実技～

必要な情報を**的確**に聴取！

適切なタイミング

で出動隊に情報提供！

月日	第1時限	第2時限	第3時限	第4時限	第5時限	第6・7時限	
	9:00（訓練開始9:10）～12:45			12:40～15:15		15:30～16:00	16:00～16:50
12月24日	実技					15:30～16:00	16:00～16:50
3日目	シミュレーション総合訓練（大教室、第1教室、第2教室、まとい和室、食堂、救急実習室）					ポストテスト	修了式
指導医師	医師（3名）、評価者（通信教育修了者）（8名）、MC救命士（16名）、学校教官 2名					学校教官	
評価者	医師（3名）					学校教官	
評価者	評価者：通信教育修了者8名、MC救命士16名					学校教官	

通信指令教育の評価・改善

通信指令山積み検証結果報告について

対象件数 令和2年4月1日から令和2年12月31日まで
救急出動件数 58,879件（県内20消防本部）
上記期間のCPA事案 1595件
検証対象事案 76件

1. 検証日時 令和3年2月26日 14時30分から16時30分まで
2. 検証実施者 16名（参加者一覧 資料4-2 添付）
3. 検証方法 1 グループ3名または4名、1グループで約15件の事案を検証
1事案につき3名または4名が検証結果を記入（資料4-3）

4. 検証集計（全ての事案から単語を抽出し集計）

		抽出単語数	約10%以上のもの
フェーズ1	01 現場特定	314	
	02 特異事案	350	通報（16%）
フェーズ2	03 意識	621	意識・反応（14%）
	04 呼吸	787	呼吸（19%）
	05 その他	531	
フェーズ3	06 フェーズ2に戻るチャンス	1045	呼吸（10%）
	07 口頭指導できなかった理由	897	呼吸（16%）

5. 結論

フェーズ3 06 フェーズ2に戻るチャンス 10%が呼吸に対する指摘
フェーズ3 07 口頭指導できなかった理由 16%が呼吸に対する指摘

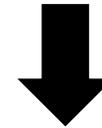
呼吸の評価について、フェーズ2に戻るチャンスや口頭指導に繋がらなかったという検証意見が多くあった。

6. 提案

通信教育のカリキュラムに「呼吸」に対する評価や聴取方法を講義内容に取り入れてはどうか

結論

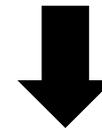
フェーズ3 06 フェーズ2に戻るチャンス 10%が呼吸に対する指摘
フェーズ3 07 口頭指導できなかった理由 16%が呼吸に対する指摘



今回の集合検証で分かったことは、

呼吸について、

適切に聴取できていなかったことが判明！！



WGで検討！消防学校で計画！

令和3年度通信指令員教育のカリキュラムに反映！

地域の枠を超えたPDCAサイクル

WGで教育内容検討

Plan

D.

通信指令員教育過程

Act

Check

WGで評価

WGで改善方法検討

